

2024 年 6 月 13 日

環境優良商品の普及による“CO2 削減貢献量※1”を数値化！
「GBP App」を実装し、参加企業の脱炭素への取り組みをサポート
2023 年度「グリーンボールプロジェクト」実績報告

工作機械/工具や産業機器と、住設機器・家庭用機器などの専門商社・株式会社山善（本社：大阪市西区、代表取締役社長：岸田貢司）は、2008 年度より環境関連ビジネス「グリーンボールプロジェクト」を推進しています。2008 年度から 2023 年度までの 16 年間で延べ 12,549 社が参加し、CO2 削減貢献量※1 は累計で 570,867t - CO2 となりました。



環境優良商品の普及を促進することで、持続可能な社会の実現を目指し、地球環境とエネルギーの未来に貢献することを目的とする「グリーンボールプロジェクト」。当プロジェクトでは、当社が取り扱う環境優良商品が、当プロジェクトの参加企業（販売店）を通じて工場や一般家庭へ販売・設置されることで、生じていると考えられる CO2 削減貢献量※1 を集約して数値化することによって、さらなる普及、拡大を促し、CO2 削減に貢献しています。

<グリーンボールプロジェクトの成果>

	2023 年度	累計（2008 年度～2023 年度）
CO2 削減貢献量	37,709 t - CO2	570,867t - CO2
森林の年間 CO2 吸収量換算※2	4,285 ヘクタール分 (東京ドーム約 910 個分の面積※3)	64,871 ヘクタール分 (琵琶湖※4 に匹敵する面積)
参加企業数	639 社	12,549 社

また、2022 年 7 月より、当社における CO2 排出量を拠点・部署ごとに把握するため、株式会社ゼロボード（本社：東京都港区、代表取締役：渡慶次 道隆）が提供する SaaS 型の CO2 算定アプリケーションを一部カスタマイズ化した「GBP App」（ジービーピー・アプリ）を導入しました。さらに、「GBP App」をグリーンボールプロジェクトの参加企業である販売店にサービスとして提供しており、当社から見た Scope3※5 の一部でもあるサプライチェーンの CO2 排出量と削減効果の「見える化」を支援しています。アプリの主な機能である「GHG 算定」に加え、AI を活用した機能や、カーボンフットプリント算定機能など、新たな機能も実装され、参加企業の脱炭素への取り組みのサポートも強化しています。

当社は、今後もグリーンボールプロジェクトの活動並びに、「GBP App」を活用した CO2 排出量の算定・可視化を推進しながら、サプライチェーン全体の脱炭素に寄与してまいります。

<「GBP App」の特長>

- ✓ 当社および参加企業の CO2 排出量を算出・見える化
- ✓ 対象商品の販売量に応じた CO2 削減貢献量を算出・見える化
- ✓ GHG プロトコルに準じたカテゴリ排出量の表示
- ✓ 年・月次での増減比較ができ、連綿性のある進捗管理が可能
- ✓ J-クレジット等、保有クレジットと紐づけオフセットも可能



<「GBP App」の新機能>

① AI-OCR※による証憑アップロード

入力面倒な各種帳票は、AI-OCR によって自動取り込みが可能。撮影した画像をパソコン、スマートフォンからアップロードし、自動で入力します。

※AI(人工知能)技術を取り入れた光学文字認識機能

② AI-Chat bot 機能

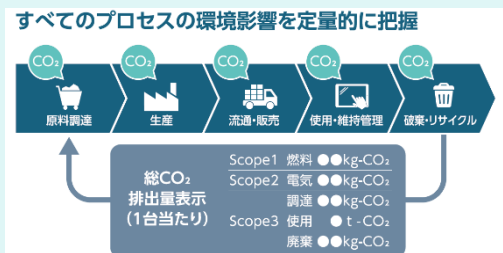
算定作業を進める中で出てくる質問に、AI チャットボットが数秒で自動回答します。策定担当者の疑問がスピーディーに解消されることで、作業時間が短縮できます。

③ カーボンフットプリント算定機能

組織の排出量に加え、原材料の調達から廃棄・リサイクルに至るプロセスごとに GHG 排出量の算定が可能です。

■カーボンフットプリントとは

Carbon Footprint of Products の略称で、商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクルを通して排出される温室効果ガスの排出量を CO2 に換算し、商品やサービスに表示する仕組み。



<公益財団法人日本自然保護協会への活動支援>

グリーンボールプロジェクトは、CO2 削減貢献量に応じて日本の希少な自然を守る環境保護活動を支援しており、様々な自然保護活動を行っている「公益財団法人日本自然保護協会」を支援しています。同協会は人と自然が共に生き、赤ちゃんからお年寄りまでが美しく豊かな自然に囲まれ、笑顔で生活できる社会の構築を目指し活動しています。



写真提供：公益財団法人日本自然保護協会

<GX リーグに参画しています>

当社は、経済産業省が設立した「GX（グリーン・トランスフォーメーション）リーグ」に参画しています。



※1：ベースライン比較法に基づくプログラム型削減。

※2：森林はスギ人工林として計算。森林の年間 CO2 吸収量は 1 ヘクタール当たり約 8.8t として算出。

※3：東京ドームの面積は約 4.7 ヘクタールとして算出。

※4：琵琶湖の面積は 669.26 km²として算出。出展：滋賀県ホームページ「琵琶湖の概要」より

※5：事業者による GHG 排出量の算定・報告対象範囲の区分。

(Scope1:自社の事業活動における直接的な GHG 排出 Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用により発生する間接的な GHG 排出 Scope3:上記以外の事業活動に関わるサプライチェーンの GHG 排出)

今後も当社は、パーパスである「ともに、未来を切拓く」のもと、世界のものづくりと豊かな暮らしをリードしてまいります。

※ ニュースリリースの内容は発表時のものです。

閲覧いただいている時点では内容が異なっている場合がありますのでご了承下さい。

(お問合せ窓口) 株式会社 山善 広報・IR室 担当 米田

電話 06-6534-3095

E-mail : info07@yamazen.co.jp